

患者氏名 :

患者 ID :

造影剤を用いるCT検査または尿路造影に関する説明書

今回実施するCT検査および尿路造影は、‘造影剤’という薬剤の注射をして行います。造影剤を用いることにより、あなたの病気の状態をより正確に明らかにし、今後の治療に役立てます。CT検査は造影剤を使用しなくても行えますが、正確に診断が出来ず病気を見落とす場合があります。これは安全な薬剤ですが、まれに副作用が起こることもあります。副作用の種類はつぎのようなものです。

- (1) 軽い副作用：吐き気・動悸・頭痛・かゆみ・発疹などで、基本的に治療を要しません。
このような副作用の起こる確率は、約100人につき5人以下、つまり5%以下です。
- (2) 重い副作用：呼吸困難・意識障害・血圧低下などです。このような副作用は、通常は治療が必要で、後遺症がのこる可能性があります。そのため、入院や手術が必要なこともあります。このような副作用が起こる確率は、約1千人につき1人、つまり0.1%です。
- (3) 非常にまれ：病状・体質によっては約10～20万人につき1人の割合（0.0005%～0.001%）で、死亡する場合があります。
- (4) なお以前に造影剤を用いる検査を受け、副作用のなかった方でも副作用が起こる可能性があります。

造影剤を注射する時には

- (1) 体が熱くなることがありますが、血管に対する直接の刺激による正常な反応であり、心配いりません。
- (2) 勢いよく造影剤を注入するために、血管外に造影剤がもれることがあります。この場合には、注射部位がはれて痛みを伴うこともあります。基本的には時間がたてば、吸収されますので、心配いりません。もれた量が非常に多い場合には、別の処置が必要となることもあります。非常にまれです。

当院では万一の副作用に対して万全の体制を整えて、検査を行っています。もし異常だと感じたら、ためらわず、すぐにおっしゃってください。

患者氏名 :
患者 ID :

造影CT検査・尿路系造影検査の副作用について

CT検査、尿路系造影検査で使用するのは、『ヨード造影剤』というお薬です。検査において造影は必ずしも全ての場合に行われるものではありません。必要性は病気の種類によって異なります。造影剤には以下の様な禁忌および副作用がありますので、ご承知おきください。

1. 造影剤使用の禁忌・原則禁忌

●禁忌（造影剤を使用してはならない場合）

ヨード造影剤に過敏症

重い甲状腺の病気のある方（ヨードが甲状腺に集積し、症状が悪化することがある）

●原則禁忌（造影剤を使用しない事を原則とするが、適応がある場合には慎重に投与する）

一般状態の極度に悪い患者

気管支喘息の方

重い心臓の病気、重い肝臓の病気のある方・腎臓の働きの悪い方

急性膵炎・マクログロブリン血症・多発性骨髄腫・テタニー・褐色細胞腫の患者

造影剤の慎重投与：以下の場合には慎重に投与する必要があります。

発疹、じんましんなどのアレルギーを起こしやすい体質（両親兄弟などを含む）を有する患者、薬剤過敏症・脱水症状・高血圧症・動脈硬化・糖尿病・甲状腺疾患・肝機能低下のある患者・高齢者および幼児・小児

2. 造影剤の副作用

軽い副作用（発生頻度 3%程度、100 人につき 3 人）

吐き気・動悸・頭痛・かゆみ・発熱などで特に治療を要しないことが多い

重い副作用（発生頻度 0.01%程度・1 万人につき 1 人）

呼吸困難・意識障害・血圧低下などで、治療が必要で、後遺症が残る可能性があります。

入院や手術が必要な場合があります。

患者氏名 :
患者 ID :

3. その他の注意事項

- 10-20 万人に 1 人の割合 (0.0005%~0.001%) で死亡する場合があります。
- 喘息 (ぜんそく) の既往がある患者では、そうでない患者に比べて、重い副作用がおこる確立が約 10 倍高いと報告されています。
- 検査後約 1 週間程度の時間がたってからも、発心やかゆみなどの遅発性副作用が起こる場合がごくまれにあります。
- 造影剤注入中・注入直後に、一時的に気分が不快になることがあります。
(血管の反射による血圧低下で過敏症ではありません。)

造影剤との併用注意：以下の薬剤を服用している場合、原則的に休薬が必要です。

ビグアナイド系糖尿病薬

(商品名：ミタ・メデット・メルビン・ネルビス・グリコラン・シベトンS・シベトスB・メトホルミン・トーワ・メトリオン 等)

造影剤と併用することにより副作用が増加する可能性があります。そのため当院では、検査前後の一定期間服用を休薬していただいております。

(1) ヨード造影剤について

ヨード造影剤は、無色透明で、やや粘りのある液体です。X線を通しにくいいため、この造影剤がたくさんある部分は白く映し出されます。静脈から注入し、全身の血管から血液の豊富な組織に分布していき、ほとんどが 1 日以内に腎臓から尿中に排泄されます。その分布の仕方や排泄経路を利用して病気の診断を行います。したがって、腎臓の機能が低下している場合、排泄がおそくなるだけでなく腎臓の機能がいつそう低下することがあります。腎機能低下がある場合は、慎重な対応が必要です。

(2) CT検査で造影剤を使用することによる利点

以下に述べるさまざまな利点があり、よりいっそうの正確な画像診断が可能となります。そのため副作用発生の可能性が高くなる場合でも、造影CT検査による診断が必要な場合、医師は造影検査を進めることがあります。

患者氏名 :
患者 ID :

- A) 血管の詳しい情報を得ることができる。
閉塞、狭窄、血管奇形、解離などの診断および腫瘍と血管の関係の把握。
- B) 各種臓器の血流の情報を得ることができる。
例) 腎臓・脾臓の梗塞の診断など。
- C) かたまりをつくる病気（腫瘍・膿瘍）などの検出が容易になる。
例) 肝腫瘍や陣腫瘍の検出など。
- D) 病変の性状の画像診断に有用である。
例) 肝腫瘍の良悪性の鑑別や悪性腫瘍・血管腫・膿胞の鑑別など。
- E) ほかに病気の種類によって多くの利点があります。

(3) 検査の実際、および、検査を受ける際の注意

造影検査中は、医師、診療放射線技師、看護師が常に観察し、何か以上が現れた場合すぐに対処できるようにしています。

造影剤注入中は身体があたたかくなることがあります。これは通常の反応で副作用ではありませんので心配する必要はありません。また、あたたかさの程度は注入速度によって変化します。

造影剤は勢いよく注入するので、血管から漏れることがあります。検査中はできるだけ腕を動かさないで下さい。漏れたとしても、時間とともに吸収されるので通常処置は必要ありません。（ただし、大量にもれると、処置が必要になる場合がありますが非常にまれです。）

(4) 遅発性の副作用とは

検査後1週間以内にまれに遅発性の副作用が出現することがあります。ほとんどは発心やかゆみなどの軽い症状のものです。

※上記の内容につき十分な説明を受け、理解しました。

年 月 日

署名欄